テ書中

亦

語

前述

ノ如ク實ニ支那ニテ作リシ

æ

而シテ植學啓原

ハ實ニ天保四年ノ出版

ナリ 日

辨物ノ學之ヲ別テ植學ト日

٤ 動學 ŀ

٤

山物之學

ŀ Ė 「フ云云 叉日ク

齷齪ナル哉客ノ言ャ請フ近ク譬ヲ取ン云云

ŀ

植學

ŀ

日と

植物學ト日フ共ニ同ジク Botany 即

ニテ作者

ハ植學啓原

ノ著者ナル宇田川榕菴氏ナリ同書ノ序文(原ト漢文)ニ日

チ

Botanica ノ譯語ナリ而シテ植學ノ語

ハ我日本ニテ作

y

シ

Æ

ŋ

途ヲ講ズルモ亦極メテ容易トナレリ是レ竹類ノ根本的調査ノ完了セルガ爲メナリ 渚 ノ外佝管見アレドモ先ヅ此ニ其主ナルモノ、要旨ヲ記載 n 竹類 画 ノ整頓セ 3 タ w Ð シモ 拙 ベキヲ信 ノナリ而シテ今日ハ尙一層完全ニ其研究出來居リ從テ其種類モ亦之ヨ ハ殆ド其種類ヲ研究シ ゼリ先キニ農商務省山林局 虚セ リ從テ標本頗ル完全ニ蒐集サレ ョリ佛國 セリ パリー萬國博覽會ニ出陳 アリ 是 サレタル v 亦 有用植 リ増加セ 竹品 リ故 ハ孎 列 ヲ承ケテ 館 利用ノ

有

崩

竹

類

調

〇植學ノ語ハ日本ニテ作リ植物學 ノ語ハ支那ニテ製ス

牧 野

富

太

郞

|細亞東邊ノ諸國タド本艸アリテ植學ナキナリ斯ノ學アリテ其書アルハ實ニ我ガ東方榕菴氏ヲ以テ濫觴 ナ

云フ客嘲テ日ク植學ハ即チ本艸ノミ況ャ其名古へニ見ぶ而シテ杜撰之レヲ命ズ妄モ亦甚ダシト余謂ラク

ノニシテ蓋シ咸豐八年出版ノ李善蘭筆述ノ「植物學」ニ剏 w

植學ノ語ハ日本ニテ作リ植物學ノ語ハ支那ニテ製ス

發

行

月 又「チ"コレート」ノ名ハ最早既ニ吾人ノ耳ニ慣レタモノトナツタ 近來我邦デモ大分「ヂコレート」ヲ賞用スル人ガ殖エタノデ坊間ノ西洋食料店ナドデハ何處デモ之ヲ賣テ居ル

故ニ草木 ノ性ヲ知ルヲ植物學第一ノ要事ト ナス(原ト漢文)

我邦明治ノ初年前後 レテ遂ニ之ヲ聞カザルニ至レリ又同ジク明治ノ初年ニハ本草學ノ語ヲ植物學ニ代用セ ノ文ァリ ニハ世人能 ク植學ノ語ヲ用ヰタリシガ後植物學ノ語ヲ常用スルニ至テ植學ノ名

リ正當ノ見ニ非ザル

ナリ是レ本草ハ植物學ト同意義

ニアラザレバナリ

Æ

アリ

ŀ ハ漸次ニ

雖ドモ

廢

「チョコレート」

野 富 太 郎

敂

ちょこれーとのさハ南米ノブラジル並ニ南米北部ノ諸國、中部亞米利加、 Cacao L.デアル又Cacao sativa LAM. Cacao Theobroma Tussac. 及ビ Cacao minus GAERTN.ノ異名ヲ有スルソシ ちょこれーとのき即チかかをのきハあをぎり科中ノかかや族 (Buettnerieae)ニ屬シ學術上ノ名稱ハ 此いちょこれーとのき一名かかものきニ生ル果實中ノ種子カラ製スルノデアル今下ニ精シク話ソウ テ本品ガ此屬中デ一番早ク知ラレタ種デアル メキシコノ原産デ Theobroma

テ居ル此 ,ガ今ハ廣ク新舊兩世界ノ熱帶地ニ栽植セラレラ居ル其中デモ西印度諸島中ノ或ル島々デ ノ如キ栽培品ノ中ニハ數個 ノ變種モ出來テ居レバ又特種品モ生ジテ居ル 西印度ノ諸島、 ハ最モ盛ニ之ヲ作ツ

ーとのきハ餘リ大キナ喬木デハナクテ凡一丈牛乃至三丈ノ高サニ成長スル、

枝い膚ガ平滑デ灰色或